

芥川 其之一 口語訳・平仮名書き原文

【口語訳】

(一) 昔、男がいたそつだ。

(二) 女で男がとても妻としてえられそうもなかった人を、何年もの間求婚し続けていたが、やつとこのことで盗み出して、とても暗い中を来たそつだ。

(三) 芥川という川のほとりに連れていったところ、女は草の上に降りていた露を見て、「あれは何かしら。」と男に尋ねたそつだ。

(四) 行く先の道のりも多く、夜も更けてしまったので、鬼がいる所とも知らないで、雷までもがともひどく鳴り、雨もひどく降ったので、

(五) 荒れた隙間だらけの倉に女を奥に押し入れて、男は弓と胡 を背負って戸口にいて、早く夜が明けてほしいと思い続けて座っていた間に、鬼がはやくも一口で女を食べてしまったそつだ。

(六) 「あれえ」と言っただけで、雷が鳴る騒ぎで、男はそのことを聞くことができなかったそつだ。

(七) ようやく夜が明けてゆくので、見ると連れてきた女がいない。

(八) じだんだを踏んで泣いてもどうにもならない。

(九) 白玉ですか何ですかとあの人が訪ねたときに 露ですと答えて露のように消えてしまいたかったのになあ

すべて歴史的仮名遣いのひらがなで書いてあります。これを流暢に音読できるように練習しましょう。

あくたがは

むかしをとこありけりをんなのえうましかりけるをとしをへてよはひわた
りけるをからうしてぬすみいていとくらきにきけりあくたかはといふか
はをゐてゆきければくさのうへにおきたりけるつゆをかれはなにそとなむ
をとこにとひけるゆくさきおほくよもふけにければおにあるところとし
らてかみさへいといみしうなりあめもいたうふりければあはらなるくらに
をんなをはおきおいしいれてをとこゆみやなくひをおひてとくちにをりは
やよもあけなむとおもひつつゐたりけるにおにはやひとくちにくひてけり
あなやといひけれとかみなるさわきにえきかさりけりやうやうよもあけゆ
くにみれはゐてこしをんなもなしあしすりをしてなけともかひなししらた
まかなにそとひとのとひしときつゆとこたへてきえなましものを